

会議抄録

1 開会

2 会長挨拶

※増子会長より挨拶

3 議事

(1) 審議事項

ア (仮称) 多賀城市こども計画策定のためのアンケート調査について

※事務局より資料2～6「(仮称) 多賀城市こども計画策定のためのアンケート調査について」に基づいて説明

【質疑・意見交換等の内容】

委員：アンケートは記名式ですか。無記名ですか。

事務局：無記名です。

委員：各アンケートは過去の調査をベースにしたものなのか、新しくつくったものでやるのか。新しいものは何を参照につくったのか、その辺りの前提を教えてくださいと思います。

事務局：こども・若者調査（資料3）につきましても、市としても初めての対象者へのアンケートになります。こちらは実績のある委託業者である株式会社ぎょうせいさんと共に、宮城県の調査やアンケート等を参考に調整し作成しております。2番目の子どもの生活実態調査（資料4・5）につきましても、現在、子どもの貧困対策計画がありまして、その時の調査の中身をベースに、なるべく前回計画との違いが分かるように作成をさせていただいているところでございます。保護者調査（資料6）につきましても、前回のすくっぴープランを少し参考にしている部分もありますが、基本的には改めてつくり直したというところでございます。

委員：アンケート調査実施に当たって、市から市民全体に「アンケートが届いた方は協力お願いします」「こういったものが届きますよ」というようなアナウンスを事前に入れる予定はありますか。

事務局：現時点では、ホームページ等への掲載を検討しておりました。タイミング的に広報誌等に間に合えば、そこへ載せることも少し考えていきたいと思っております。

委員：こういったアンケートが小学5年生だと400名、中学2年生だと300名と人数が限られているので、恐らくクラスの中で1人、2人がぽんと資料を

渡されると、保護者としては、うちに何か問題あったのかとちょっとどきどきしてしまう部分があるので、渡されたと同時に協力お願いねということだけではなく、事前にもらうかもしれませんよ、アンケートが届くかもしれませんよという周知があったほうが非常に安心できるかなと感じました。

事務局：小学生、それから中学2年生については、いま対象者が400人、300人と書いてありますが、やはり内部でも当たる人と当たらない人がいるという、委員がおっしゃられたようなことが起きるんじゃないかという懸念がありましたので、事業者さんと相談をして、基本的には全員対象に行いたいなと思っていました。調査対象者の数の調整はさせていただいて、なるべくそういったことが起こらないようにしていきたいと考えてございます。

委員長：アンケート調査に関して質問やご意見と言われても、本日皆さんのお手元に届きましたので、事務局からも説明の中でありましたが、ある一定期間を設けて、委員の皆さんに中身を見ていただいて、ご意見を頂戴するということにしていきたいと思います。期間と方法を設定しましょう。

事務局：はい。8月18日までにメールでお願いいたします。

委員長：わかりました。それでは、この（仮称）多賀城市こども計画策定のためのアンケートについて、これから18日までにいただく皆さんからのご意見を踏まえた上で、会長一任とさせていただいてよろしいでしょうか。

一 同：はい。

(2) 報告事項

ア 第2期多賀城市次世代育成行動計画（後期計画）令和6年度実施状況について

※事務局より資料7「第2期多賀城市次世代育成支援行動計画（後期計画）の令和6年度実施状況」に基づいて説明

【質疑・意見交換等の内容】

委員：基準値の設定の根拠があれば教えていただきたい。

事務局：市の総合計画、第六次総合計画があり、そこでの指標とほとんどの指標がリンクしておりますので、そのときに設定した平成31年の値となっております。

委員：基本方針2「子どもの安全・安心と人権を守る」という項目の中に、次年度以降、いじめ問題の対策会議を項目に入れてはいかがかと思いました。

事務局：いじめ問題の部分についても、安全・安心対策において市民の方に重要な問題だと思っておりますので、次期計画策定の会議の中で議論していきたいと思っております。

委員：基本方針1の不登校出現率について、6年度が5.8%で、基準値が2.4%ということで、大体倍ぐらいの数値にはなっているのですが、達成度を見る

と「中」となっていて、「中」は先ほどのご説明では8年度までに目標値を達成する可能性が高いものという評価と捉えているのですが、何か現実とはちょっと離れているなというのが正直、現場からすると感じます。これを半分にするのはすごく大変というよりも、本当にそこまで行けるのか。こういった手立てがあるのかというのを、毎年毎年模索しながらやっているわけですので、この「中」というのは何か現実的ではないような気がしました。

事務局：ここの不登校出現率について、目標値としては下がるとよいというふうにしているのですが、さらに令和6年度落ちていきますので、おっしゃるとおり、なかなか難しい状況かなというふうには思っております。不登校については問題行動ではないというところはもう共通の認識かとは思いますが、次年度の後期計画の総合計画の中では、不登校出現率というのは指標にしないというような方針で見直しを考えております。不登校対策というのはしていきますけれども、これを指標としないようなことで今のところは考えております。

イ 第2期多賀城市次世代育成行動計画（後期計画）令和6年度実施状況について

※事務局より資料8「第2期多賀城市子ども・子育て支援事業計画の令和6年度実施状況」に基づいて説明

【質疑・意見交換等の内容】

※質疑・意見交換等なし

ウ 令和7年度の市の取組みについて

※事務局より資料9「令和7年度の市の取組みについて」に基づいて説明

【質疑・意見交換等の内容】

委員：あまり関係ないことですが、ちょっと確認の意味で伺います。多賀城市内の公立小中学校、ほとんど3階建て以上の建物だと思いますが、エレベーターのついている学校は何校ありますか。

事務局：児童生徒のためのものではありません。

※実際は、高崎中以外は、給食運搬用のエレベーターに人も常用可能。高崎中のみがELV操作者のみ搭乗可能な荷物用であったため、後日訂正。

委員：毎年のように言っているが、体の不自由な子を3階へ車椅子でどうするのかと。すると「いや予算が…」というそういう答えばかり。今から20年近く前に建設会社に勤めており、塩釜高校の仕事を請け負った時、3階建ての建物なのにエレベーターついていました。当時、公共の施設というのは、5階建て以上じゃないとエレベーターはつかないです。それで、エレベーターは無駄じゃないかと質問したら、いや、健常者ばかりじゃありませんと。そのためにエレベーターをつける。もう目からうろこで、そう思って

ほかの高校見ていると、ほとんどついていないのです。それで、あの辺りで選出の県会議員に学校1回見てみろと。クーラーない部屋を見てみろと。こういうようなところで勉強できるかと。それでやっとクーラーがついて、エレベーターはまだなのです。そういう意味で、もしそういう体の不自由な小中学生がいたら大変な思いををすると思うので、ぜひ、予算の関係もありますけれども、1つずつ各小中学校にエレベーターの設置をお願いしたいと思っております。

事務局：そのようなご意見があったこと、事務局内で共有して検討を進めていきたいと思えます。

委員：子ども政策課の説明にあった保育所等物価高騰対策補助事業の中の(2)の保育環境改善補助事業ですが、うちの園でもICT化はかなり進んでいるのですが、月額費用とか、そういったのが今から発生していきます。最初はいいですけども、やっぱりその辺も長い目で見ていただいて、その辺の補助なんかも考えていただけるとなと思います。やはりコンピューターですので、5年ぐらいすると新しく替えなきゃならない。その辺もありますので、新たにだけじゃなくて、すでに入れたところに対しても補助を考えていただけると大変助かると思うのですが、その辺よろしく検討いただきたいと思えます。

事務局：委員おっしゃるとおりかなと思います。ただ、今、国の動きとして、市とか県ではなく、全国単位で標準化のシステムという話が出ていますので、それがどういうふうになっていくか、そこをちょっと見極めなければいけないかなと思っています。今のところは各園の登降園管理とか、その辺りの最低限のレベルを引き上げたいということで、今年度補助事業させていただきましたので、そこから先の部分については国の動きなんかを見ながら少し検討させていただきたいと思えます。

委員長：委員の方から全体を通じてご要望や感想などいただきましたが、一旦議事はこれで終了させていただいて、本日の議事に関するご意見や感想をいただきたいと思えます。

委員：これからのこども計画やヤングケアラーの部分等、新たな部分が多く発生していくとは思いますが、都度柔軟に対応していただきたい。そして、ぜひ「対象者だけが知っている」ではなく、市全体でこども計画が策定されるんだということを市全体が知っているとか、ヤングケアラーに対して対応がなされているという部分を市民が知れる機会・周知があるとすごくいいなと感じております。

委員：実際に学校でどうなっているかというのを自分の子どもともコミュニケーションを取りながら、いろいろな意見を聞きながらこれから会議に参加していきたいと思えます。

委員：多賀城市の子どもに対する行政のやり方、非常に感心はしているのですが、今年は30度を超しているような気温で、もう子どもたち外で遊ばせるということができず、非常にかわいそうです。水遊びができるときはよいですが、今月は水道料金10万円分の請求が来ました。子どもたちの遊びに対して、私たちもそういう経費をあまりマイナスに考えちゃいけないと思いま

すが、静岡から来たある父兄さんとお話していたところ、やはり静岡というのは30度を超すなんていうのは当たり前前で、遊び場が高架橋の下だそうです。日陰だからやはり涼しいというんです。なるほど、暑い地域というのはやっぱりそういうところに遊び場つくると。それで、その話聞いてからちょっと近所を回って見たんです。そうすると、八幡小学校の前なんか結構高架橋の下で、ああ、ここ涼しそうだなとか、多賀城小学校の前の仙石線の高架の下も、ああ、あれ日陰になって涼しそうだなと。発想をやはり今まで涼しかったからあまり考えなかったんだけど、そして、日陰のところに子どもたちの遊び場みたいなちょっとしたものをつくってあげれば、子どもたちも外で発散できるのかなと思いましたので、ぜひそういった感じも公園の担当部署の方にちょっとご相談していただいてもいいかなと思いました。

委員：震災前に宮城県の子ども会育成連合会の会長やっけていまして、その当時12万人子ども会の会員がいました。今は3万人。震災の影響もあり、一番の原因は親が役員をやりたくないから入れないというのが多いです。ただ、特に中学生、高校生のジュニアリーダーは、子どもを遊ばせるのが非常にうまいです。小学生あるいは幼稚園児、保育園児を遊ばせるのに、非常に発想がユニークで、もちろんそのための訓練もやっております。ぜひここにおられる皆さんでそういう子ども会に入るように、また、中学生、高校生になったらジュニアリーダーとして活動できるような多賀城市にしてほしいと思っております。

委員：いろいろな情報とか計画等もホームページで見ましたが、一般の市民の方はホームページで見るというのはないと思うんです。私はスマホに多賀城市のLINE入れていまして、そこでちょこちょこ見えています。スマホを持っていらっしゃる方は多いので、そういったところで発信というか、簡単に見られたらいいなというふうに思っていました。

委員：改めて多賀城市の取組、数字とともに知る機会となりました。他の校長先生方とも共有させていただきながら、連携を図ってまいりたいと思います。

委員：資料7を事前に頂いたときに、学校・家庭・地域連携し、子どもたちの豊かな育ちを支え合う地域がつけられていると思う市民割合が非常に低いというのが印象でした。ただ、学校のほうではいろいろな地域の方、コーディネーターさんを中心に紹介していただいて、地域の方に専門的な教をいただいている子どもが年々増えていると思います。ですから、そういう子どもたちが大きくなって、多賀城市の世代交代が少しずつ進めば、時間かかるでしょうけれども、変わっていくのかなというふうには思っております。今後とも地域の方にご協力いただきながら、本物の教育を進めていきたいなと思っております。

委員：市でいろいろな計画立てて取組してもらっていて、この地域で働く人たちも安心して働けるようなそういった取組を続けていってもらえればなと思っています。

委員：子どもを育てる環境というのはいろいろと変化が激しいと思うので、市の皆さんも大変ご苦労されているのではないかなというふうに思っております。

す。我々多工連としては、子どもへの科学の興味を育てるということで、サイエンスデイ in 多賀城というイベントを年に1回開催させていただいております。少しでも子どもたちの未来につながるようなイベントになればいいなと思っておりますので、ぜひここにいる皆さんにも認知していただいて、ぜひ近くの子どもたち参加させていただければなと思っております。今年度は10月の後半に開催を予定しておりますので、ぜひ皆さんと一緒にイベントを盛り上げたいと思います。

委員：この会議に当たって、第3期の多賀城市子ども・子育て支援事業計画を読ませていただいて、これまでもアンケートなどを実施して、市民の声を聞いてきたんだということ、そして、今後の課題についてもきちっと捉えられてきたということで、改めて子ども・子育ての全体計画を作成するに当たり今日審議したことで、よりよい支援をしていただけるといいかなと思います。1つだけお願いしたいこととか、ちょっと提起したいことがあります。私は教育相談員をやっているんですけども、小学校で不登校、中学校で不登校、その後なんとか高校に行ったんですけども、高校でも不登校ということがあります。小中学校は手厚く一応カバーしてもらっているんですが、高校に行くと、もう即退学です。授業数が足りないで退学だということで、それではどうするんだという相談が今増えていて、高校のお子さんの相談が増えています。高校に行ったときの受皿というのはないのかなと。不登校の子というのは、学校に行きたいと思っても行けないという精神的なところもあって、親も悩んでいる。先ほど教育総務課の方から、不登校は指標から外すと言ったんですけども、不登校の陰にはそういうことが続いていく部分がうんとあると思うので、そこをケアしていくような何かを手だて、多賀城市だけじゃないのかもしれないけれども、打っていただくような方法があるといいんじゃないのかなと常にこう思っているところです。

委員：私は同じような子ども・子育て会議ですとか、いろいろなところへ参加しております。宮城県、仙台市、岩沼市とか、あと、こども家庭庁のこどもの貧困の委員とか顔を出させていただいているんですけども、多賀城市の状況もそうですし、ほかの自治体の計画の状況とか、国の政策とか、そういったところを共有しながら貢献していきたいと思っております。何より今一番大事なのは子どもの意見とか、子どもの権利をどう擁護していくのかということが子ども政策のベースになっているかと思っておりますので、そういった子どもの現場の状況などを可能な限りお伝えし、貢献できればと思っております。

委員：私は助産師をしまして、臨床としていたのは平成8年までです。多賀城に来て、地域で活動しています。かつては子育てイコールお母さんだったけれども、今はみんなで見守ろうねということで。今一つ気づいたんですけども、アンケートはお父さんが書くんですか。お母さんが書くんですか。その辺でまた変わるんじゃないかなと思っているので、今、お父さんたちも育休を取っている方も多いので、母子手帳もお父さんが書いているご家庭もあつたり。そういう家庭関係の方だと、父と母ではちょっと違うかなと思ったりします。

事務局：どちらが書くというのはこちら側から指定はしていないんですが、委員がおっしゃるとおり、書く方がお父さんとお母さんで捉え方が違う部分があるかなとは思いますが。おそらく書かれる方は、どちらかというとな積極的に子育てに関わっている方になるのかなという思いがあって、特に指定はしていないんですけれども、そのお父さんとお母さんの違いなども分析をして、傾向を捉えていきたいなと思います。

委員：ジュニアリーダーの育成を見ていると、それがとても大切で、年下の小学生、中学生を扱う中高生のジュニアリーダーの存在がとても頼もしいなと思っております。多賀城市エステバンといいますけれども、いろいろ関わるところを探して行って、微力ではございますが、子どもたちのために何かできることを探しながら活動していきたいと思っております。

委員：私も今年、多賀城市のこういった内容を見ることができまして、結構きちっとやっていて、成果が上がっているんだなというふうには、資料上は感じました。ただ、この子ども・子育て会議、子どもたちを取り巻く環境をどう整備するかということになるんでしょうけれども、やっぱり目に見えないところはたくさんあって、特に私は、親の姿勢を育てていくということがやっぱりすごく難しいし、例えばアンケート一つにしても、対象者3,000人という数字が出ていましたけれども、多くの方々にアンケートを取って啓発するとか、もしかすると保育園の時点からご父兄をどう教育するかによって、環境の整備は大分変わってくるかなというふうに思っていました。メール等でまたご意見とか吸い上げていただけるというお話でしたので、そちらのほうでご回答させていただければと思います。

委員長：それでは以上で本会議における議事は全て終了いたしました。

4 その他

※なし

5 閉会

※副会長より挨拶